

【屋内活動】キャンドルのつどい

(1) 概念

キャンドルのつどいは、キャンドルを囲み静粛な雰囲気の中、スタンツなどをおこなうことで仲間との親睦を深めることができます。また、天候に左右されることなく活動できます。

(2) 意義

- ・ キャンドルのつどいを経験し、友情、連帯感を強める。
- ・ 信頼と友情を生み出す。
- ・ 静かに自己を見つめ、振り返る機会を持つ。
- ・ 明日への希望と勇気を与える。

(3) 隊形

人の「和」を象徴し、すべての人の顔が見え、全員が明るく輝くことのできるシングルサークル（一重円）が基本です。人数が多くシングルサークルで入りきらないときは、ダブルサークル（二重円）にしてもかまいません。

(4) 役わり

- ① 営火長 1人
全体のまとめ、火の神の言葉を言う。
- ② 司会 1人
プログラムを進行・展開します。明るく元気よくはきはきと進行します。
- ③ 火の守り 2人
屋外で火の使いのろうそくを点火し、室内灯の点灯と消灯をする。
- ④ ソングリーダー 数人
司会を助けながら、ゲームやソング・ダンス等を担当します。
- ⑤ 火の使い 1～2人
点火したろうそくを持って入場する。「点火の言葉」を述べた後、営火長の合図により点火か中央点火します。
- ⑥ 会場係 1～数人
中央燭台の移動と2部の終わりに全員にろうそくをつけた手持ち燭台を配る。終わったら回収し、後片づけをする。
営火長、司会、火の守りは必ず必要で、他の係はプログラムに応じておきます。

(5) 日暮らしのつどい

キャンドルのつどいの導入プログラムとして「日暮らしのつどい」を行います。

司会・ソングリーダーによって、キャンドルのつどいの説明と、つどいの中で歌う歌やゲームを中心に行い、最後は心をしずめるつどいにします。

(6) キャンドルのつどいの流れ(例)

第1部 はじめのつどい

No.	プログラム例	備 考
1	入場	火の守りは室内灯を消す。静寂の中でシングルサークルになる。営火長、司会はあらかじめ立っておく。
2	火をむかえる歌	歌いだしは司会がおもむろに歌い始め、全員で歌う。2番はハミング。
3	キャンドル入場	火の使いは屋外で火の守りからろうそくに点火してもらい、入場して火の神前に立つ。
4	火の使いのことば	火の使い『この火をここに集う皆さんにささげます』と営火長に告げる。
5	点火	営火長の『点火』 火の使いは中央燭台に点火する。
6	営火長のことば	司会『営火長のことば』 営火長はつどいにふさわしく、心にひびく話を簡単に堂々とする。
7	歌	ソングリーダーや司会が歌い始め、全員で知っている明るい歌を歌う。みんなが歌っている間に火の守りは室内灯をだんだん明るくなるようにつける。会場係は中央燭台を端に移動させ、火を消す。

第2部 たのしいつどい

<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく明るい雰囲気高め、傍観者を出さないように、皆で親睦を深める。 ・内容の例 歌、ダンス、ゲーム、短い劇（スタンツ）、郷土芸能など (みんなで拍手、声援) <p>※スタンツは、自分たちの発表をみんなに見せて、楽しませることを考える。また、ゲームやダンスをコンパクトにまとめ、合間にテンポよく発表する。</p>

第3部 おわりのつどい

1	歌	全員で静かな歌を唄ううちに、火の守りはだんだん暗くなるように消灯する。会場係は暗くなり始めたら、全員にろうそくをつけた個人持ちの燭台を配り、中央燭台を持って出る。中央燭台のろうそくに火を点ける。
2	採火	司会『採火』 【営火長がする場合】 営火長が中央燭台から自分のろうそくへ火をつけて戻り、両隣へ分火する。 【代表がする場合】 司会『代表の人は、火を取りに行ってください』 代表が中央燭台から自分のろうそくに火をつけて戻り、両隣へ分火する。
3	誓いのことば (時間配分によっては、無くす。)	司会『誓いのことば』 各代表者が心に残ったことや感想・反省を簡単にはっきりと述べる。(人数によっては全員)
4	営火長まとめの詞 歌「今日の日はさようなら」	司会『営火長のことば』 明日への希望、勇気、活力がみなぎるような言葉を静かにやさしく、参加者に語りかける。
5	おわりの歌	ソングリーダーや司会が、心が休まったり、友情を深めるような歌をうたい始め、全員でうたう。2番はハミング。
6	退場	ハミングにのせて退場。静かで落ち着いたまま退場する。